

平成30年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書

評価項目1	学校教育目標の設定・共有	
現 状	昨年度の自己評価はA（85.7%）であった。	
評価指標	全教職員が学校教育目標を共通理解し、その達成に向けて努力する。	
達成目標 (数値目標)	ア、イ（下記自己評価の基準を参照 以下同じ）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	「 全体方針・ビジョン 」及び各分掌の「 具体的目標 」にしたがって、 検証票の副校長提出を義務づけ、月ごとの検証と改善の計画実施を促した。	
自己評価	B (78.6%)	[反省・意見] ・「月ごとの検証票提出」が滞ることがあった。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者 評価	B	[意見・提言] ・パーセンテージを上昇させるように望む。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	B	[意見・提言] 学校目標に対して達成に向けての努力は認めるが、現状を変えなければという意欲がやや減退しているように見える。 学校目標の達成の重要度を管理職と職員が共有することが課題と思われる。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	定例職員会議で目標の再確認を行うなどの対策をとりたい。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

A 達成した ア、イの合計が85%以上

B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満

C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満

D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

平成30年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目2	組織の充実・校務分掌の明確化	
現 状	昨年度の自己評価はB（75.8%）であった。	
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標や重点目標を達成するため、各分掌の役割や取り組み内容を明確にする。 ・組織的に連携するため、自己の職務の検証と他の分掌への提案を行う。 	
達成目標 (数値目標)	ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	各分掌とも協力して業務ができた。	
自己評価	B (76.6%)	[反省・意見] ・%は微増であったが、組織的な業務ができていた。
評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった		
学校関係者 評価	B	[意見・提言] ・概ね良好と認められる。
評価基準 A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる		
第三者評価	B	[意見・提言] 昨年度同様、分掌ごとのエネルギーの差が見られる。 目標と具体的な業務との関係を明確にし、より短いスパンで評価し、全体で共有することが今後求められる。
評価基準 A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる		
次年度に向けての課題	情報共有、連絡、申し送りを徹底させ、自己評価を上げたい。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した ア、イの合計が85%以上**
B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

平成30年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目3	学年・学級運営の充実	
現 状	昨年度の自己評価はB（60.3%）であった。	
評価指標	学年団は、教育目標や重点目標を把握し、生徒の居場所となる学校や学級づくりに努力している。	
達成目標 (数値目標)	① 定期的には学年情報交換会を行う。 ② 定期的に学年集会を行う。 ③ 定期的に大掃除を行い、校内の美化に努めている。 ④ 2者面談、3者面談を1年にそれぞれ最低1回行う。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記①～④を検証項目として、月1度のチェックと、副校長への報告を行った。	
自己評価	A (92.1%)	[反省・意見] ① ②③を指定日としていたために達成できなかったが、「定期的に」としたため%が上がった。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者評価	A	[意見・提言] ・大変よい結果であると認める。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	A	[意見・提言] 定期的にPDCAのサイクルが回り出したことは、昨年度と比べて大きく評価できる。 今後は実施することではなく、質がどうであるかを評価して欲しい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	各学年団が会議時間を持てるような時間割の工夫を今後も続けたい。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

A 達成した ア、イの合計が85%以上

B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満

C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満

D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

平成30年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目4	教育課程の円滑な推進	
現 状	昨年度の自己評価はA（89.7%）であった。	
評価指標	各コースごとに特色ある教育課程の編成に努めている。	
達成目標 (数値目標)	① 授業交換のしやすい時間割を組み、自習を前年より5%減ずる ② クラス分けを工夫し、効果的な時間割編成をする。 ③ 生徒の現状を考慮し、各コースの見直しを行う。 ④ 特進系はセンター試験を、総進系は推薦入試を目標とした効果的なカリキュラムが組まれている。 ⑤ EXは中高一貫教育の効果的なカリキュラムが組まれている。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記①～⑤を検証項目として、月1度のチェックと、副校長への報告を行った。	
自己評価	B (80, 8%)	[反省・意見] ・大学新入試制度、AL実施をふまえたカリキュラムを工夫。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者評価	B	[意見・提言] ・時代の流れに即した対応を望む。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	C	[意見・提言] 新学習指導要領についての理解がまだ進んでいないと感じる。今後他校も対応を進めてくると思われるが、もう一步先を見据えた素早い対応が求められる。 まわりを見るのではなく、まわりが見るようなカリキュラム作成を意識してほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	・「主体的、対話的で深い学び」を促すカリキュラム編成。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した** ア、イの合計が85%以上
B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

平成30年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目5	教科指導の充実	
現 状	昨年度の自己評価はB（82.3%）であった。	
評価指標	生徒の実態を踏まえた学習指導方法の工夫・検証・改善が行われている。	
達成目標 (数値目標)	① 授業評価アンケートの結果を年に2回、各科で検討し、その都度改善策を検討する。 ② 英検、漢検の目標合格率を定めてクリアする。 ③ 計画的に宿題・課題を出し、家庭学習の習慣が定着するように工夫する。 ④ 授業改善、アクティブ・ラーニングの積極的導入。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記①～④を検証項目として、月1度のチェックと、副校長への報告を行った。	
自己評価	B (81.6%)	[反省・意見] ・授業公開により、各自の授業に工夫がみられた。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者評価	B	[意見・提言] ・組織的な改革を推進してほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	B	[意見・提言] 生徒の授業評価からも授業改善は確実に進んでいると思われる。反面、ある程度の結果が出たところで満足しているようにも見える教員も目に付く。工夫を続けている教員との意識の差を埋めることが課題である。 授業公開をより充実し、互いに刺激を受ける機会を増やすことが望まれる。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	授業改善のさらなる推進。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

A 達成した ア、イの合計が85%以上

B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満

C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満

D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

平成30年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目6	生徒指導の充実	
現 状	昨年度の自己評価はA（86.9%）であった。	
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が共通理解のもとに統一的な生徒指導を行っている。 ・情報交換が常になされ、全教職員が問題を共有している。 	
達成目標 (数値目標)	① 遅刻者数1日10以下。 ②服装違反0。 ③頭髪違反0。 ⑤ 撻指導の徹底。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記①～④を検証項目として、月1度のチェックと、副校長への報告を行った。	
自己評価	A (85.5%)	[反省・意見] ・今年度も組織的に対応できた。学校カウンセラーによるカウンセリングも機能した。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者評価	A	[意見・提言] ・概ね良好と認められる。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	B	[意見・提言] 子どもたちと教師の関係もよく、生徒指導上大きな問題は見られないが、その状況に教師集団がやや気を緩めているのではないかと感じられる部分がある。具体的には、授業評価アンケートで「チャイムと同時に授業が開始されている」の項目の評価が下降していることがあげられる。こういった点を改善することが求められる。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	素早く、きめ細かい対応を心がけたい。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A** 達成した ア、イの合計が85%以上
B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

平成30年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目7	進路指導の充実	
現 状	昨年度の自己評価はB（72.2%）であった。	
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導を向上させるため、朝学習や家庭学習の習慣の定着をはかる。 ・放課後講習を実施し、模試の分析などによって現役合格率を上げる。 	
達成目標 (数値目標)	①センター目標値を定めてクリアする。 ② 現役合格目標値を定めてクリアする。 ③ 学全国模試の目標点を定めてクリアする。 ④ 総進は課題未提出5%以下。 ⑤ 卒業時進路満足度80%以上 ⑥ 情報の全員共有。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記①～⑤を検証項目として、月1度のチェックと、副校長への報告を行った。高2対象進路出前授業を実施した。	
自己評価	B (83.3%)	[反省・意見] ・今年度は進学実績も上向き傾向であった。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者評価	B	[意見・提言] ・入試制度の変更など時代の変化に対応しなければならない。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	B	[意見・提言] 高校3年生の学習意欲の高かったことがアンケートからも見てとれる。進路指導が従事していたのだと推察する。あえて評価をBとしたのは、新学習指導要領の実施や、大学入試の改革への対応がやや遅いように感じるからである。今年度の成功をいかしながら、今後の変化への対応を進めてほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	大学入試新制度の研究	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した** ア、イの合計が85%以上
B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

平成30年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書	
評価項目8	家庭・地域との連携の推進
現 状	昨年度の自己評価はA（86.9%）であった。
評価指標	日頃から保護者との連携を強め、学年通信、ホームページ等により、適切な学校の情報を提供する。
達成目標 (数値目標)	① 学年通信を年間10回以上発行する。 ② 近隣中学校へ年2回以上訪問する。 ② 文化祭の参観数が前回を超える。 ⑥ オープンスクールの参加者数が前回を超える。 ⑦ PTA総会の出席者数を把握する。 ⑧ 学校ホームページを充実させるとともに、印刷物等で学校情報を公開する。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。
実際の取り組み状況	上記①～⑥を検証項目として、月1度のチェックと、副校長への報告を行った。
自己評価	B (82.3%) [反省・意見] ・全項目について目標の達成は概ねできたが、%はやや落ちた
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった
学校関係者 評価	B [意見・提言] ・マンネリにならないよう常に新しい視点が必要。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる
第三者評価	B [意見・提言] しっかりと取り組んでいることは評価できるが、その効果検証などの評価の充実が望まれる。また、伝えるべきことを学校のビジョンや学校目標の達成と連動しながら明確にすることが求められる。 量的な目標から質を重視した目標の転換が求められる段階に来ているように思う。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる
次年度に向けての課題	オープンスクールの内容、スケジュールの企画再検討。

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した ア、イの合計が85%以上**
B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

平成30年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目9	省エネルギーの実行	
現 状	昨年度の自己評価はA（94.6%）であった。	
評価指標	光熱水費や用紙等の無駄を省き、省エネやリサイクルに取り組んでいる。	
達成目標 (数値目標)	① 光熱費、暖房費を前年より減ずる。 ② 分別回収を徹底する。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記①～③を検証項目として、月1度のチェックと、副校長への報告を行った。 事務室に電力消費の表を掲示し「見える化」をはかった。	
自己評価	A (96.3%)	[反省・意見] ・生徒、教職員とも意識せずに実行できるようになった。%も高くなった。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者評価	A	[意見・提言] ・取り組みの真剣さが評価できる。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	B	[意見・提言] 省エネを意識した行動が昨年度以上にできていることは十分評価できる。昨年度も述べたが、今やっていることだけでなく自分たちができることは他にはないかと生徒にも考えさせ、より広げていくことが求められる。次の段階へ進むことを期待して、今年度は評価Bとした。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	省エネの徹底。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した ア、イの合計が85%以上
 B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
 C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
 D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

平成30年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目 10	特別指導の充実 (中学校)	
現 状	昨年度の自己評価はB (83.9%) であった。	
評価指標	様々な体験活動や特色ある活動等が活発に行われている。	
達成目標 (数値目標)	① 体験活動・職場訪問・ボランティア活動を各定期考査終了直後に実施する。 ③ 講演会を随時催す。 以上の項目につき、ア、イ (下記自己評価の基準を参照) の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	① ②、ともほぼ達成できた。	
自己評価	A (86.2%)	[反省・意見] ・中学校全体が効果的に活動できた。
評価基準	A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状維持にとどまった D: 現状より悪くなった	
学校関係者 評価	A	[意見・提言] ・体験的学習によって成長してほしい。
評価基準	A: 達成したと認められる B: ほぼ達成したと認められる C: 現状維持であると認められる D: 現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	A	[意見・提言] 体験活動等が効果的に実施できたことは評価したい。今後は、こういった体験を子どもたちの中にどう蓄積し、どう成長につなげていくかの視点での取り組み意識してほしい。ポートフォリオを意識することも視野に入れてほしい。
評価基準	A: 達成したと認められる B: ほぼ達成したと認められる C: 現状維持であると認められる D: 現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	家庭との緊密な連携を図りたい。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した ア、イの合計が85%以上**
B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

- ・自己評価は全教職員による。
- ・学校関係者評価は、PTA役員(保護者)、学校評議員、学識経験者等、本校関係者による。
- ・第三者評価は、教育コンサルタント 大西 貞憲 氏による。